1. 各関係機関ヒアリング及びアンケート調査による視点や意見、課題の整理

各関係機関へのヒアリング及びアンケート調査による視点や意見、課題を整理し、**マインドマップ**として可視化しました。作成したマインドマップは、西原東小学校に対する多様な期待と課題を具体的に表しています。複数の視点を系統的に整理したうえで、基本方針を策定につなげます。

1．基本方針

各関係機関へのヒアリングやアンケート調査結果をもとにマインドマップを作成し、検討委員会での意見交換や社会的背景、地域課題を踏まえて基本方針を決定しました。

基　本　方　針

文教のまち　西原
～人がかがやき 自然豊か 文化かおる 平和創造のまち～

学校、家庭、地域が連携（協働）し、子どもたちが安心して学び、自己の可能性を最大限に引き出せる教育環境を整備します。また、多様性と公平性を重視したインクルーシブ教育を推進し、教師が働きやすい環境を整えることで、教育の質の向上を目指します。さらに、地域の歴史や伝統を尊重し、郷土文化を次世代に継承します。

学校、家庭、地域が相互の連携

学校、家庭、そして地域社会が協力し合い、こどもたちの教育環境を整えることで、より豊かな成長を支える枠組みを強化する。

防災拠点としての機能強化
・地域の安全を守るため、学校施設を災害時の拠点になるよう整備。

セキュリティ・防犯対策の充実
・こどもたちと学校の安全を確保するための配置計画等で防犯面を強化。

安全性と快適性を重視した設計
・こどもたちが安心して過ごせる環境づくりに重点を置いた施設設計。

近隣への配慮
・学校周辺の住民や環境に配慮した計画や建築を心がける。

自ら学ぶ意欲の高揚

こどもたちが主体的に学びに取り組む意欲を育てるためのプログラムや環境を整備する。

教育環境の充実
・こどもたちが充実した学びを得られるよう、設備や多様な教材の整備を検討する。

・ＩＣＴを有効に活用して自ら学ぶ意欲を高められる環境を整備し、学力の向上を図る。

柔軟な学習空間の確保
・こどもの学びのスタイルに対応するため様々な用途に活用できる柔軟な空間の設計。

・教師が安心して教えられる環境を整え、学びの場の効率と質を高めることで、快適な教育環境を目指す。

インクルーシブ教育

全てのこどもが互いの多様性を認め合いながら、個別最適な学びと協働的な学びが実現する環境を整える。

多様性を考慮した空間設計
・様々な背景を持つこどもたちが快適に過ごせる、多様性を尊重した空間づくりを目指す。

心理的安全性の確保
・こどもが安心して学び、自らの可能性を伸ばせる環境整備を目的とし、柔軟な設計とします。

教育に反映できる設計
・教育活動が円滑に行えるよう配置や設備計画に配慮し、効率的かつ機能的な設計を実現。

教師が働きやすい環境

教師が負担なく教育活動に専念できるよう、労働環境を整え教育の質の向上につなげる。

共用スペースの充実
・こども同士や教師が交流しやすい、自由に集える共有エリアの整備。

健康・衛生面の配慮
・健康や衛生面の視点から学びやすさ働きやすさに配慮した環境を整備。

長寿命化とﾒﾝﾃﾅﾝｽ性の向上
・建物の耐久性や使いやすさ、ﾒﾝﾃﾅﾝｽ性の向上で安心安全な環境を整備。

駐車スペースの確保
・歩車動線を考慮し、利用者が快適に利用できる駐車エリアを適切に配置。

郷土文化の継承

沖縄の歴史や文化を次世代に伝える取り組みを通じて、地域固有の伝統や価値観を大切にし、アイデンティティの醸成を図る。

自然との調和
・自然を意識した建築や環境設計を取り入れることで周囲の景観や施設環境との調和した空間づくりを目指す。

気候特性を考慮した計画
・沖縄の気候に適した施設や設備を導入し、快適性と持続可能性を兼ね備えた空間づくりを実現。

地域文化を尊重した設計
・地元の伝統や特性を活かし、地域の自然や文化を反映した素材選びとデザインを通じてイメージを表現する。

2.施設整備のコンセプト

基本方針を基に、「文教のまち 西原」の理念の下、学校・家庭・地域が連携して主体性と多様性を尊重する安全で持続可能な学びの場を整備します。

① 開かれた学校

学習支援やボランティア、地域イベントを実施する等、地域課題の解決や相互の学び合いを促進し地域に根ざした教育環境の構築を目指し、地域住民が気軽に立ち寄れる交流拠点として学校を整備します。用途や時間帯に応じたゾーニングにより安全性を確保するとともに、教職員が児童や訪問者の動きを容易に把握できる配置とすることで、安心して利用できる環境を実現します。

① 地域連携室

地域連携室は、学校と地域社会が相互に連携・協働し、多様な活動を展開するための中心となる場です。地域住民および関係団体が「自由に利用可能な空間」として、地域課題の解決や交流促進（イベント）の場として機能するとともに、西原東こども園や西原東児童館とも連携し、子育て支援や世代間交流を広げていきます。また、災害時には避難施設として地域住民を受け入れることで防災拠点としての役割も担います。地域住民の継続的な出入りにより、自然な見守り体制が形成され、児童の安全確保にも寄与します。地域連携室は教育・福祉・防災の観点からも中心的役割を担う施設です。

③ くすのき広場

「くすのき広場」は中庭を利用した空間で、校木である「くすのき」をシンボルとし、学習や休憩、保護者の迎えを待つ児童の待機場所などとして多目的に活用されてきました。その機能を継承し、学年を問わず児童が集い、遊びや学習活動を通じて交流する場を創出します。ここは、児童が心を休めて憩える居場所であると同時に子供たちや地域の思い出が積み重なっていく大切な空間でもあります。また、防災時には避難スペースに転用可能な計画とします。日常的に学びと交流を育む場として、児童の連帯感を高め、安全で居心地のよい環境を提供します。

④近隣への配慮

学校施設の新設・運営にあたっては、近隣住民への影響を最小限に抑えることを基本方針とします。隣地から１０ｍ程度離して配置することで圧迫感を軽減しつつ施設配置や外構計画において、騒音・日照・プライバシーなどに十分配慮し、地域環境と調和した空間づくりを目指します。さらに、学校イベント等の定期的な情報共有を通じて地域との良好な関係を維持し、持続可能な教育環境の構築に寄与します。

⑤ ICT環境の充実

児童の主体的な学びを支援するため、教育活動に不可欠なICT環境を整備します。机の大きさや収納スペースに配慮した教室レイアウトを見直すことで、児童一人ひとりがタブレット端末を活用しやすい環境を構築し、学習の質と効率の向上に期待します。校内全域の接続性を確保し、教員によるICT活用指導を円滑に行うための支援体制を整えます。

2.施設整備のコンセプト

⑥ 明るくきれいなトイレ

児童が安心して利用できるよう、トイレは明るく清潔な空間として自然採光や乾式トイレの導入などで、衛生面と快適性を両立させるとともに、プライバシーと十分なスペースを確保することで落ち着いて利用できる環境を整えます。また児童の心身の健康に配慮したストレスフリーな環境を実現します。誰もが安心して利用できるよう、多様性に配慮したユニバーサルなトイレ環境を整備します。

⑦ 車両と人の動線分離・駐車台数

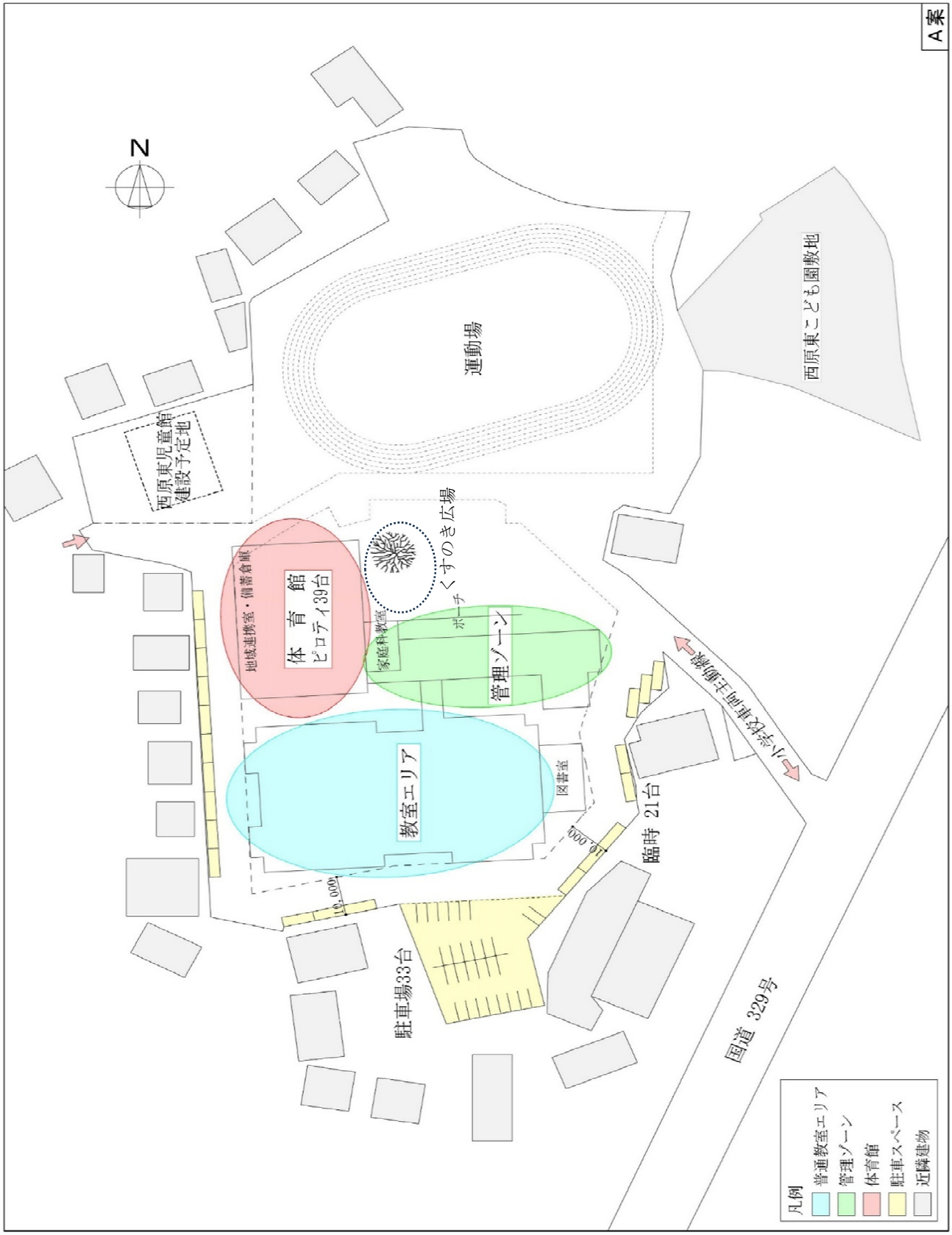
児童の安全を最優先に、車両と歩行者の動線を明確に分離します。国道側の正門と西原東こども園側の裏門の動線を分析し、交差を抑制してリスクを低減します。見通しの良い通学路や視認性に配慮した出入口を確保するとともに、駐車台数も可能な限り多く確保し、安全性と利便性を両立した安心・快適な通学環境を実現します。

⑧ 東小学校区域の郷土文化の表現

西原東小学校区域の歴史や文化的背景を踏まえ、地域に根ざした郷土文化を尊重しながら、学校教育との調和を図ります。伝統行事や風土、地域の人々の知恵児童の生活や学習の中に溶け込み、自然に育まれるようにする児童が地域の一員である自覚を持てる教育環境をつくります。

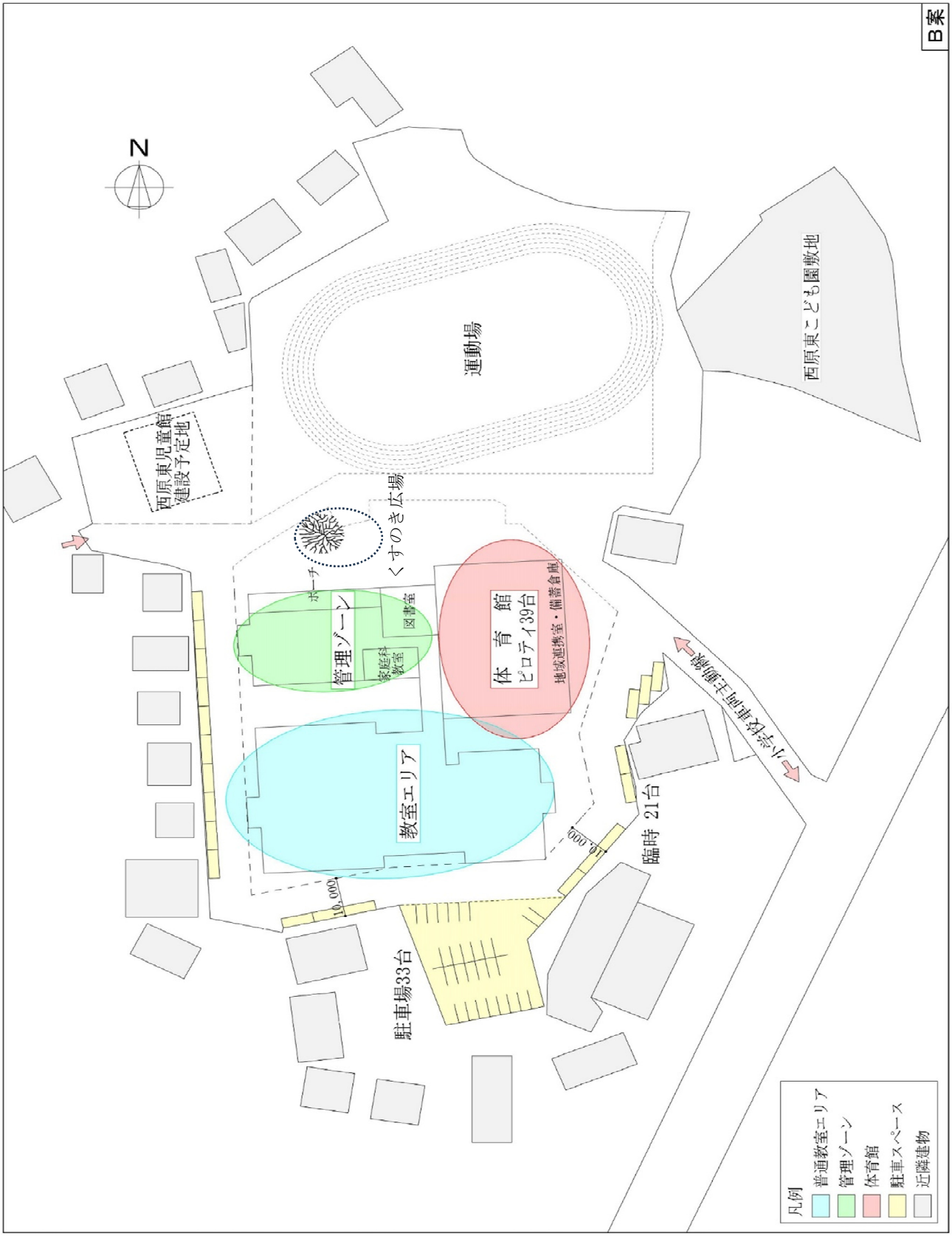
1. 施設配置計画

（1） ゾーニングプラン A案



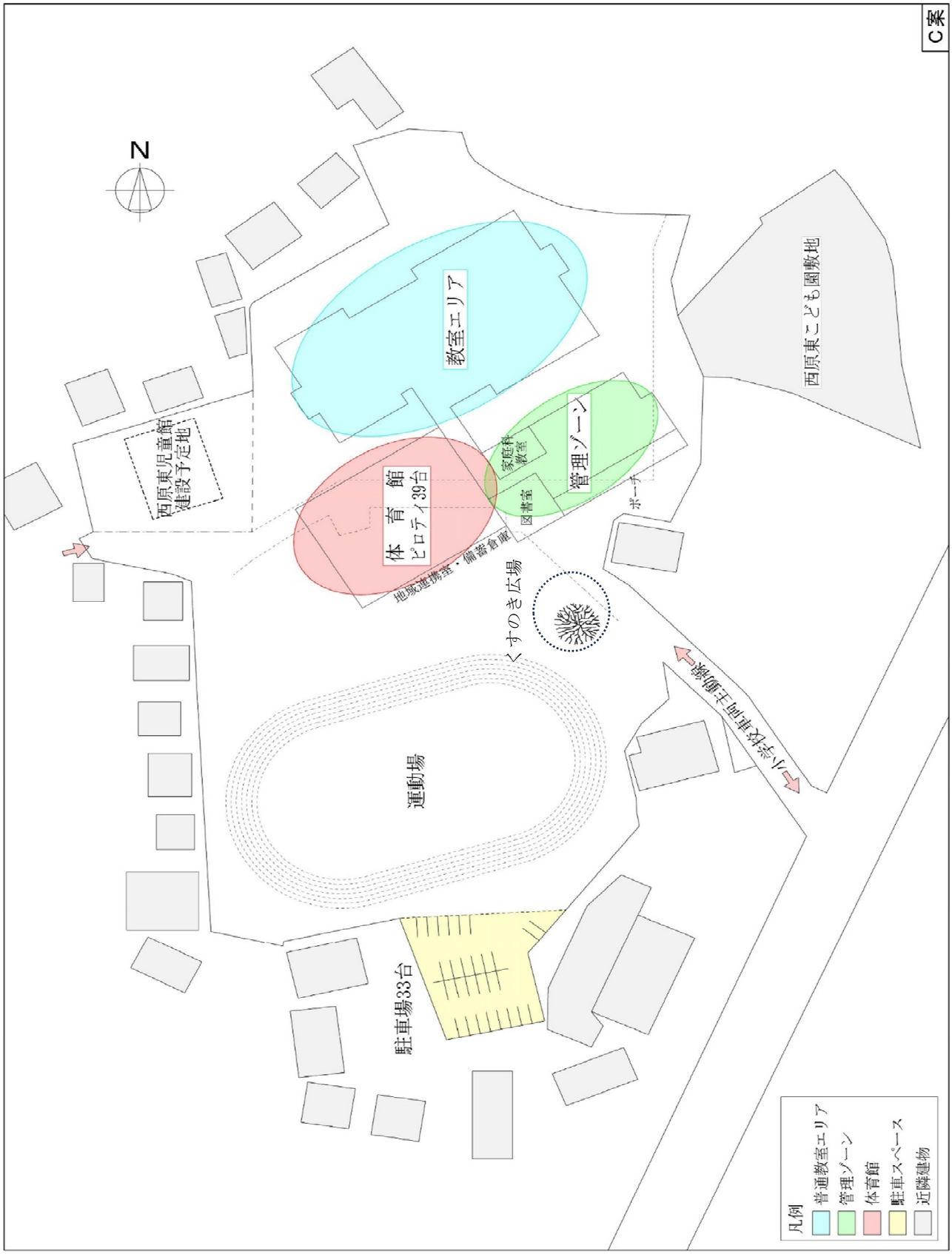
1. 施設配置計画

（1） ゾーニングプラン B案



1. 施設配置計画

（1） ゾーニングプラン C案



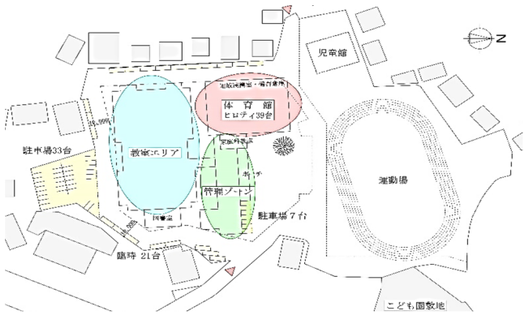
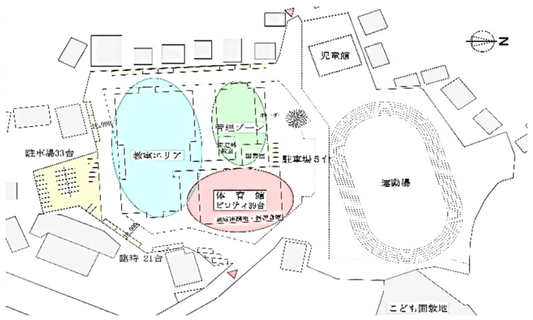
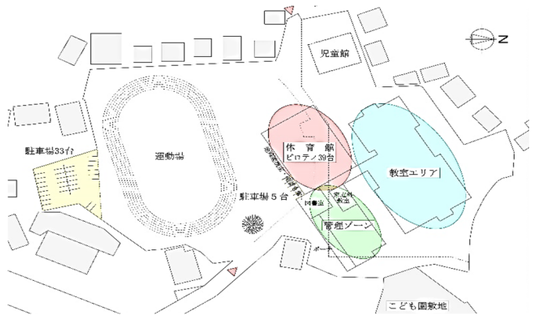
1. 施設配置計画

（2）比較検討

【共通条件】 1.校舎は敷地条件及び利便性を踏まえ、３階建てとする。（従来の４階建てでは児童・教職員から不便との声が多く、また２階建てでは敷地におさまらないため）

2.体育館１階をピロティとし、駐車場を配置する。（「小学校施設整備指針」他関係機関等へのヒアリング及びアンケートを踏まえると、従来の施設構成では駐車場の確保が困難なため）

3.プールの新設は行わない。（水泳授業に関しては民間施設への委託方式に移行する計画とする）

配　置　案	A 案		B 案		C 案	
【凡例】 ◎ 非常に良い ○ やや良い △ やや劣る × 不適である						
全　体　計　画	敷地南側の従来の運動場範囲に、南側に教室エリア、西側に体育館、東側に管理ゾーンを配置した。	○	敷地南側の従来の運動場範囲に、南側に教室エリア、西側に管理ゾーン、東側に体育館を配置した。	◎	従来の施設配置をほぼ踏襲し、敷地北側に教室エリア、西側に体育館、東側に管理ゾーンを配置した。	◎
動線・配置計画	各エリア間の視認性と管理ゾーンからのアクセスに配慮した。また正門（敷地東側）から**昇降口が視認しやすい計画となっている。**	◎	各エリア間の視認性と管理ゾーンからのアクセスに配慮した一方で、正門（敷地東側）から**昇降口の視認性が課題。**	○	各エリア間の視認性と管理ゾーンからのアクセスに配慮した。**体育館ピロティ駐車場への歩車分離が課題。**	○
安全性・防犯性	正門（敷地東側）に管理ゾーン、裏門側に体育館（地域連携室）を配置することで安全性を確保した一方で、**体育館までの一般動線が長い。**	△	正門（敷地東側）に体育館（地域連携室）裏門側に管理ゾーンを配置することで安全性を確保し、開放予定の**体育館までの一般動線を最短とした。**	◎	正門（敷地東側）に管理ゾーン、裏門側に体育館（地域連携室）を配置することで安全性を確保した一方で**体育館ピロティ駐車場への歩車分離が課題。**	○
外　部　環　境	運動場と学校施設の配置替えを行うが、必要な運動場面積は確保可能。学校敷地への出入口は従来通りで、児童の通学動線に変更はない。	◎	運動場と学校施設の配置替えを行うが、必要な運動場面積は確保可能。学校敷地への出入口は従来通りで、児童の通学動線に変更はない。	◎	施設規模拡大により従来の運動場範囲が狭まるが、プール棟の取壊しもあり面積の確保は可能。学校敷地への出入口は児童の通学動線に変更はない。	◎
近隣への配慮	隣地より10m離隔（周回道路として活用）を取ることで日影や騒音、圧迫感等を最小限とするよう配慮した。**体育館に面した住宅への騒音対策が課題。**	○	隣地より10m離隔（周回道路として活用）を取ることで、日影や騒音、圧迫感等を最小限とするよう配慮した。	◎	従来の施設配置とほぼ変更が生じないため、計画についての近隣への説明がしやすい一方で、**長期工事による近隣への負担が想定される。**	○
駐車台数の確保	**常時：79台**（体育館ピロティ：39台、屋外：33台） **臨時：21台**（周回道路に縦列駐車可）	◎	**常時：77台**（体育館ピロティ：39台、屋外：33台） **臨時：21台**（周回道路に縦列駐車可）	◎	**常時：77台**（体育館ピロティ：39台、屋外：33台） **臨時：要検討**	○
仮　設　校　舎	不要	◎	不要	◎	必要。仮設配置は従来の運動場範囲が想定されるが、既存校舎施設は４階建のため、仮設規模によっては十分な配置検討が必要。	△
施　　工　　性	出入口（東西２箇所）を境に敷地南側に施設が集約されるため、工事動線の分離が容易となる。	◎	出入口（東西２箇所）を境に敷地南側に施設が集約されるため、工事動線の分離が容易となる。	◎	出入口（東西２箇所）を境に敷地北側に施設が集約されるため、工事動線の分離が容易となる。	◎
造　成　計　画	従来の１mの高低差は学校施設の足元をかさ上げする事で解消。一方昇降口のバリアフリー対応のため、**一部盛土が必要となる。**	○	従来の１mの高低差は学校施設の足元をかさ上げする事で解消。一方昇降口のバリアフリー対応のため、**一部盛土が必要となる。**	○	施設規模の拡大に伴い、運動場に近い施設の**一部にかさ上げや盛土などの対応が必要となる。**	○
工　　期	仮設校舎の建築・引越し等を考慮すると、**比較的工期短縮が実現する。**	◎	仮設校舎の建築・引越し等を考慮すると、**比較的工期短縮が実現する。**	◎	仮設校舎の建築・引越し、仮設解体後の運動場整備等、**一定の工期を見込む必要がある。**	△
経　済　性	仮設校舎：¥0 概算工事費：※造成工事・運動場整備を含む（設計費・設計監理費等･解体工事費は別途） ¥5,347,000,000 合　計：**¥5,347,000,000**	○	仮設校舎：¥0 概算工事費：※造成工事・運動場整備を含む（設計費・設計監理費等･解体工事費は別途） ¥5,347,000,000 合　計：**¥5,347,000,000**	○	仮設校舎：¥498,000,000 概算工事費：※造成工事・運動場整備を含む（設計費・設計監理費等･解体工事費は別途） ¥5,288,000,000 合　計：**¥5,786,000,000**	△
検　討　結　果	境界線沿いに10m離隔を確保し周回道路を設けることで、隣接住宅への配慮と学校機能向上が実現した。しかし周回道路を経由した体育館までの距離があり、一般開放を考慮すると、安全性・防犯性での課題が残る。		境界線沿いに10m離隔を確保し周回道路を設けることで、隣接住宅への配慮と学校機能向上が実現した。正門からの視認性に課題はあるが、他の面では優位性があり、バランスの取れた計画となっている。		同一範囲での建替えには、近隣関係の維持、地域シンボル性の保全、既存インフラの活用といったメリットがある。一方仮設設置に伴う費用増加、工期延長、引越し負担他、仮設での教育環境の質の低下といった課題が挙げられる。	